

3.さしつけ条件・管理

穂づくり



【採穂時期】

- ・九州では3月中旬～4月下旬が適期

【流水処理】

- ・採穂後の荒穂は、穂作りするまで下部を水に浸漬しておく

【穂づくり】

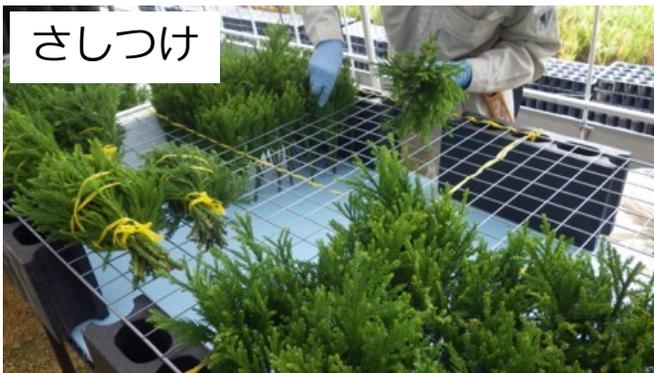
- ・25～35cmが適



さしつけ前処理

【さしつけ前処理】

- ・発根促進剤（例:オキシベロン等）の溶液に、穂の基部を浸漬
※浸漬時間12～24時間程度
- ・さし穂はさしつけ前に殺菌剤で処理をおこなうことが望ましい



さしつけ

【さしつけ時期】

- ・九州では3～4月が適期

【さしつけ密度】

- ・35cm穂の場合は150本/m²程度が適
※5cm角の網目を使う場合は、千鳥状に3列さしつけて1列空ける間隔
- ※密度が高すぎると腐敗しやすく発根率の低下にもつながる



穂の立て方

×（悪い例）：穂が重なることで腐敗しやすい

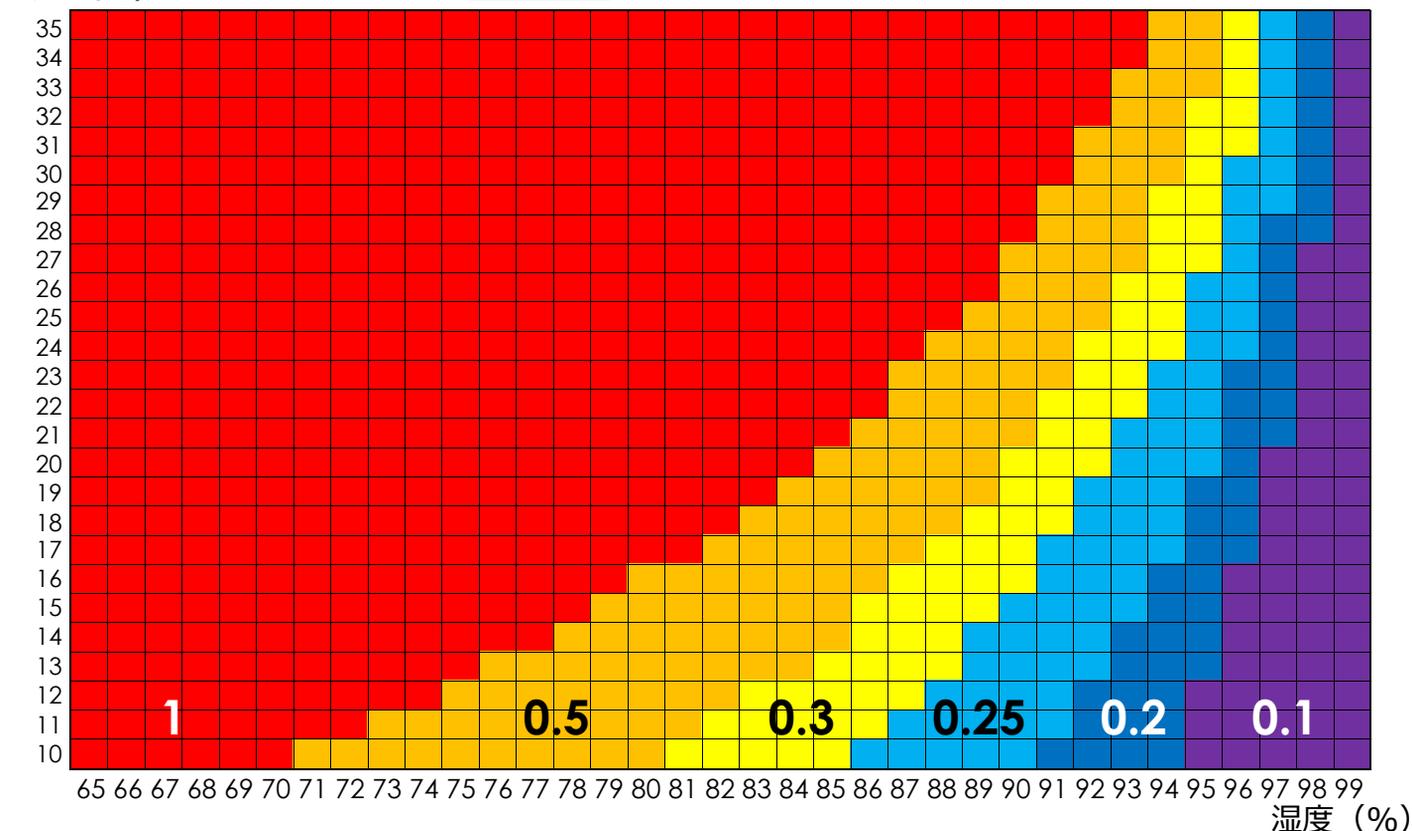
【穂の立て方】

- ・上部（側枝がついている部分）が垂直に立つように立てかける
- ・穂が横積みにならないように立てる
※横積みになっていると腐敗する傾向あり
※曲がった穂は重なりやすいので、立て方等に注意が必要

早見表

■:1 ■:0.5 ■:0.3 ■:0.25 ■:0.2 ■:0.1

気温 (°C)



- ・ さし穂付近の1時間毎の気温と湿度を測り散水パターンを決定すること(後述)
- ・ 散水パターンはさし穂の状態を確認しながら2ヶ月に1回程度見直すこと
- ・ 条件変更後1週間程度は注意深くさし穂を観察し、散水条件を調整すること
- ・ 1回の散水で0.8L/m²程度散水すること

(散水パターンの決定方法の例：1*→2*→3*の順に決定)

★ 散水

時刻	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
気温 (°C)	12	12	11	11	10	10	11	13	16	19	21	23	24	24	24	23	21	19	17	15	14	13	13	12
湿度 (%)	97	98	98	98	98	98	98	96	85	79	73	73	70	69	68	67	74	79	85	92	94	96	97	97
表色 (1*)	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.5	0.25	0.2	0.1	0.1	0.1



- 1*. 時間ごとの温湿度データから早見表で各時間帯の色 (数値) を調べる
- 2*. 赤色となる時間帯は単独で数値が1になるため、その時間帯に1回散水する
- 3*. 赤色の次の時間 (例では18時) から順次各時間の色の数値を足して合計が1以上になったら散水 (例では0.5+0.25+0.2+0.1>1になる21時に散水。以下同様に散水のタイミングを決定する)